奥多摩での生活

～ リアルな獣害被害 ～

箱ブランコに乗ってゆったりとした時間を満喫できると思っていた奥多摩での生活。引っ越して 10 年。それどころか、仕事のない日には、畑仕事が忙しい。移住前からお世話になっていた地元の方から鍬(くわ)、鋤(すき)をいただいた。耕し始めた頃は丸い河原の石がゴロゴロで野菜作りが初めての私にとっては悪戦苦闘の日々。漬物石にピッタリな大きさだったり、また、大きな石は直径１m以上もあった。大昔、多摩川がここを流れていていたことの証である。

サツマイモは地面に荒い目のワイヤーシートを置いて防御して育ててみたものの、イノシシに掘り起こされた。見るも無残な畑となった。ちょうど掘り起こそうと思っていた矢先にやられる。ジャガイモは水はけの良い斜面が多い奥多摩の地での定番だが、最近ではイノシシに狙われる。ある日、三分の一程度やられた状態を発見し、あわてて残りすべてを掘り起こした。こちらとしても必死だ。カボチャ、トウモロコシ、ナス、キュウリは猿の大好物。両脇にそれらを抱えた猿たちを山の中腹までご近所さんは追いかけてくれた。私も爆竹とロケット花火で追撃。人間が山の頂上近くまで植林を行ったせいで住み分けができずにいる。また、近年の気象の状況も影響し動物たちの山林での食べ物が不足する年もある。アナグマ、アライグマ、テンは奥多摩に来て初めて見た。

罠にかかったウリボウたち

写真撮影ののちに脱走、アライグマ

友人から「もってのほか」と呼ばれる食用菊の株を分けていただき、今でも順調に育っている。秋には花を酢の物で楽しみたい。

毛皮になることを免れたテン

雑草や動物との格闘はあっても畑は私にとって何時間でもいられるやすらぎの場所である。

ガイド　工藤 智子

観光協会事務局より

～ 2023 年の夏 ～

新型コロナウイルスも 5 類に移行しました。この夏は 4 年ぶりに獅子舞などの祭礼も再開し、賑やかな夏を迎えることができました。

コロナ禍のときに少年野球などの団体はほとんど見かけることがありませんでした。今年の夏休みシーズンにはそういった団体を見かけることも多くありました。また獅子舞についても演目は減らしながらも、各地域で披露されました。恒例の花火大会も実施され、山々の谷間に響き渡る轟音を楽しむことができました。

【記事の誤りについて】

下記のとおり、誤記がありました。

来さっせぇ奥多摩 70 号（2023 年 7 月 15 日発行）

4 ページ　白丸調整池ダムの完成

誤：昭和 37(1962)年　正：昭和 38(1963)年

主要な通行止め

- 海沢 ネジレノ滝～大滝（復旧未定）
- 鷹ノ巣山 稲村岩尾根（復旧未定）

次号発行予定：2024 年 1 月 15 日

発行 一般社団法人 奥多摩観光協会
住所 〒198-0212　奥多摩町氷川 210
電話 0428-83-2152　FAX 0428-83-2789
編集 名人・達人観光ガイドの会

来さっせぇ奥多摩のバックナンバーをオンラインでご覧いただけます。

来さっせぇ 奥多摩

《第 71 号》
令和 5(2023)年
10 月 15 日 発行
一般社団法人 奥多摩観光協会

ヨコスズ尾根の紅葉　2021.11.3

日原の紅葉

奥多摩町の紅葉は 10 月中旬頃に東京都最高峰の雲取山(2017m)から始まり、11 月下旬の鳩ノ巣渓谷周辺まで約 1 ヵ月半をかけて、標高の高い場所から低い場所に下りてきます。

表紙の写真は日原エリア、江戸時代に御用林として保護されてきた山々は秋になると錦秋と呼ぶに相応しい美しい色付きを見せてくれます。

奥多摩エリアの山はどこから登っても急登ですが、日原エリアの山はひときわ急な印象があります。このヨコスズ尾根も日原集落からアゴが出るような急登から始まります。途中からはなだらかになり、落葉広葉樹の多い快適な尾根歩きを楽しむことができます。

行って来たぁよ

８月１０日（木）
No. 11 御岳山レンゲショウマ

バス、ケーブルを使い、８時半バス停集合から、４０分後には暑さも穏やかで、気持ちのいい御岳平にいました。ビジターセンターで、一休みし、おいしい水道水を補充し、いよいよ「レンゲショウマ」の森へ。

御岳橋から見る御岳山

富士峰園地にひろがる、その群生地。緩やかな北斜面の、その場所には、遊歩道があり、坂を下りたり、上がったりしました。目を凝らすと、淡い紫と半分透き通るような白の、小さな花が、あちこちに、ひろがっています。緑の、小さな玉状のつぼみも見えてきました。森の雰囲気の中で、その魅力は一層増します。３０分散策は、あっという間でしたが、写真もいい角度で５枚も撮れました。

御岳山のレンゲショウマ

さっき来た山道を戻り、古里への分岐へ。ここからは、下りと少しの登りの繰り返し。１１時過ぎには大塚山到着。頂上は、開けていて、日陰が昼食にはいい場所でした。休息と、お昼とおしゃべりで、あっという間に後半スタートです。１１時半。尾根伝いにどんどん下っていきました。スリップしやすいので気を付けながら。野鳥のさえずりや、時々の涼風を心地よく感じながら。平地の暑さが近い予感がしても、少し盛り上がった「中ノ棒山」頂上、飯盛(めしもり)杉の昔話など、いくつかの発見と出会いがあり、単調にならずに、下山も楽しむことができました。休憩も十分で、疲れ、水分にも、しっかりと対応したガイドで、全員無事に、１３ 時４０分ごろ、丹三郎の登山口ゲートを通過。グループごとの振り返りのあと、吉野街道を駅に向け、心地よい疲れとともに歩き出しました。

友の会会員　原島 秀敏

９月２０日（水）
No.14　天祖山 1723m

日原鍾乳洞バス停 8:40着、受付を済ませ会員 14 名＋ガイド４名で登山口に向け出発。

日原川沿いに林道を４０分程歩き、登山口へ。ここからが急登の始まり、登って行くと登山道の整備工事中。足元に注意して進むと、以前滑落事故があった場所へ。山側斜面にロープが設置してあり慎重に歩く。全員通過しホッとしたところで尾根に到着し、休憩。尾根が広がり少し余裕がでてきました。大きなブナ・オノオレカンバ等を楽しみながら進むと、アメダス観測所に到着。ここからは鷹ノ巣山の北面が一望できます。

右下:登山口

アメダス観測所より鷹ノ巣山を望む

奥多摩の山々の中で、立派な天然林が残る天祖山は特に素晴らしい森の山です。中腹に広がる大きなミズナラの林は見事です。しかし、最近楢枯れがこの山まで迫っていることが心配です。

標高 1400m付近で４回目の休憩。右奥に石灰岩の採掘場が見える岩尾根に取り付く。足元に薄紫の可憐なトリカブトの花が咲いていました。

トリカブト

ここまで登ると天祖山山頂は近い。会所前にザックを置き山頂へ。山頂標識・天祖神社を写真に収め、会所前広場に戻り昼食。この場所は唯一富士山の眺望が望める場所ですが、残念ながら雲に覆われて見えませんでした。

帰路は、２回休憩。最後の休憩箇所（尾根）を過ぎまもなく集中豪雨に遭う。狭い道で危険なのでレインウエアの上着のみ着用し、登山口まで下山。全員下半身がずぶ濡れになりました。

（**天祖山については**：来さっせぇ 70 号に掲載。）

ガイド　斉藤 全一

季節のオススメのイベント

No. 25　12 月 1 日(金)開催
紅葉の奥多摩むかし道

奥多摩といえば一番の人気はむかし道ハイキングコースでしょう。平成 21(2009)年４月には林野庁機関により森林セラピーコースに認定されました。コースは平坦な旧青梅街道で全長９キロ。ゴールは奥多摩湖畔になります。昔人はこの道を生活道として奥多摩の氷川から甲州の塩山までを交易ルートとして往来していました。

春は眩しいほどに新緑が美しく山笑う季節になります。夏は森林に囲まれて渓流の瀬音で癒されます。秋の紅葉シーズンはむかし道から眺める山々の紅葉のグラデーションは素晴らしい絶景に出会えます。

むかし道に入るとまもなくトンネルが出現、線路や陸橋が見られます。これは小河内ダムが昭和３２年に竣工するまで氷川から小河内まで、資材の運搬に活躍したトロッコ軌道の跡です。さらに進みますと境集落の上方に陸橋が見えこれらは奥多摩の観光のレガシーとして残り、往時の歴史が偲ばれます。

境の獅子舞

むかし道は多摩川の渓流に沿って歩く古道です。途中の白髭神社は石灰岩の大岩壁で知られ、この岩壁は都の天然記念物にも指定されています。毎年８月 16 日にはこの大岩壁の前で獅子舞が奉納されます。

この森林セラピーコースに指定されているこのコースは、山の景色や野鳥の囀り、そよ風、瀬音、湧き水、滝の流れを感じながらフィトンチッドを浴びて五感を働かすことができ、体験できる癒しの効果は抜群です。歩く道すがらに神仏の石像があります。昔は無医村で民間信仰の厚かった時代、馬頭観音や牛頭(ごず)観音、縁結びの神様、耳神様などに心願成就。何度訪れてもまた来たくなるのがむかし道。12 月 1 日(金)にイベントを予定しておりますので晩秋のむかし道の体験を歓迎しております。

ガイド　山口 茂樹

No. 27　12月6日(水)開催
奥多摩の急登　本仁田山(1225m)

昨年の１１月は悪天候のため止む無く山頂を諦め、花折戸尾根から鳩ノ巣駅へエスケープ下山となりました。皆さまの声に励まされ、今年こそネーヤ越えからチクマ山を経て山頂へ。

本仁田山の最難関最長「ゴンザス尾根」ルートへの再挑戦です。

古里付近からのゴンザス尾根　チクマ山と本仁田山山頂

ネーヤ越えは江戸時代の元禄期にノミとカナヅチツルハシによる数馬の切通しが開鑿(かいさく)されるまで、白丸と氷川を結ぶ唯一の道だったといわれています。日向から急登を登りきると根岩とよばれているチャートの大岩が右手に見えてきます。その後、植林帯やモミの天然林が広がる尾根、岩が露出する急登など、変化に富んだコースを抜けながら高度を稼いでいきます。

1040m のチクマ山山頂を越えると下り坂に変わります。右手は植林帯、左手が自然林で間もなく下りも終了。再び登りとなり尾根が左にカーブを切るあたりから最後の落葉広葉樹の急勾配、楽しい登り坂が立ちはだかります。落ち葉の中、足元を見つめて喘ぎ「疲れたー」と感じる頃、大休場(おおやすんば)尾根からのルートと合流。ついに山頂の出現です！「お疲れさま。」

昭和６３（１９８８）年に発行された守屋龍男著「多摩の低山」によれば、昭和６２(1987)年頃は春と秋の休日に本仁田山山頂で売店が営業。

また、隣に位置する川苔山百尋の滝経由の尾根には休憩小屋があり地元の方が商売をやっていたことがわかります。今から４０年近い昔になりますが、当時の登山人気が偲ばれるというものです。願う好天そして富士山遠望！

ガイド　増澤 強